

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源

Agresh

2019. VOLUME.III

6

あぐれっしゅ



10周年 感謝を忘れず、
この先も共に



イチゴ栽培
頑張っています！

特集

合併10周年記念生産者大会
野菜の年間販売高90億円必達へ

〈農家助成を計画〉

「みんなのよい食プロジェクト」とは、
これからの日本人にとって「よい食」
とは何かを、日本の農家とJAグルー
プ、消費者のみなさんで一緒に考えて
考え、行動していく運動です。



腕じまん

地域じまんのモノ語り

泥田に輝く青春の汗

～県立三本木農高伝統の全校田植え～



青森県立三本木農業高校で5月23日、伝統の全校田植えが行われました。水田に立てた1本の旗を奪い合う名物の「マッド・フラッグフェスティバル」では、仮装姿や迫力あるダイビングを披露し、見物する人たちを楽しませました。マッド・フラッグの女子の部決勝は、同着の2人が優勝に輝きました。植物科学科2年の村館希実さんは「初出場だったが楽しかった」と話し、動物科学科3年の西衛瑞稀さんは「1、2年で2位。最後に優勝できてうれしい」と喜んでいました。全校田植えには、十和田西高校、七戸高校、六戸高校の3校の生徒も参加。約600人が学科ごと5チームに分かれ、幅100mの水田に横一列に並び、手植えの速さと並びの美しさを競いました。

快晴に歓声響く

～小学生が紫黒米の田植え体験～

東北町立上北小学校5年生80人が5月20日、上北支店管内の水田10㍍で紫黒米の田植えを体験しました。JA指導員から苗の植え方を教わり、父兄や老人クラブの人たちと一緒に手植えを楽しみました。

秋には刈り取りも体験し、もちつきをして味わう予定です。



青年部員と一緒に田植え

～乗用田植え機も体験～

JA青年部七戸支部の部員ら7人は5月29日、七戸町和田地区にある学校田で小学生に田植え指導をしました。水田18㍍に集まった七戸小学校、城南小学校の5年生67人は、乗用田植え機と昔ながらの手植えを体験。「あねこもち」の苗を植えました。

秋の収穫も体験し、もちつきをして味わう予定です。



公式Facebook
JA十和田おいらせ

令和元年6月11日発行 ■発行/十和田おいらせ農業協同組合 〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829
■編集/JA十和田おいらせ 広報編集委員会 ■公式ホームページ <http://www.jatowada-o.or.jp> ■Email/soumu@jatowada-o.or.jp ■印刷/アート印刷

次回外務予定日 7/10(水)～14(日)



表紙紹介

● シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.84

けいしょうびと

継承×人

祖父母の農業を受け継ぐ

はまだ むつ支店管内 **濱田 幸彦さん**(36)

ゆきひこ **裕子さん**(37)

ゆうこ **志鍊くん**(1)

イチゴ栽培に力を注ぐ

お二人はむつ市内でトマトとイチゴを生産する農家の研修先で知り合い結婚。イチゴ栽培をしていたビニールハウスを祖父から受け継ぎ、100坪のハウス8棟で栽培する。パート従業員を雇い、現在の収穫量は日量80~90kgほど。良質な仕上がりで製品率が高い一方で、関東産の出荷がずれ込んでいるため、今は価格が低迷しているという。

先手対策の重要性を痛感

「農業は品質、価格も気候に左右される」と話し、病害虫の防除のタイミングなど、先手先手で対策することの大切さを痛感する。栽培で気づいたことは常に共有し、研修先の農家やJA指導員からアドバイスをもらう。今後の目標は「国の支援金に頼らず、早く農業で生計をたてられるようにしたい」と力を込める。

プロフィール

はまだ ゆきひこ、ゆうこ 東通村東栄
組合員=藤沢豊勝さん(裕子さんの祖父)
家族構成/本人、妻、子1人
農業経営/イチゴ800坪

5月中旬からイチゴの収穫が始まったばかりの濱田さんご夫妻。子育てと両立して管理、収穫、出荷の作業に忙しい毎日を送る。

栽培に取り組んで3年目。「早くイチゴ経営を軌道に乗せたい」と話し、試行錯誤を繰り返しながら、栽培技術の腕磨きに日々奮闘している。

農業を絶やしたくない

夫・幸彦さんは、むつ市城ヶ沢出身。妻・裕子さんは4年ほど前に関東から祖父母が暮らす東通村に移住した。

裕子さんの祖父母は、今の場所を開拓し酪農から始め、ダイコンや野沢菜などの野菜づくりをして生計をたててきた。「後継者がいない。農業が途絶えてしまうかもしれない」と感じた裕子さんは「農業に挑戦したい」の思いを胸に移住と就農を決意した。

告知版

総務部

第9回通常総代会開催

開催日時: 2019年6月26日(水)
午前9時 受付開始/午前10時開会
開催場所: 当JA本店 3階大会議室
※当日は総代会資料を持参願います。

金融部

合併10周年記念 懸賞金付き定期貯金 キャンペーン実施中!

キャンペーン期間
8月30日(金)まで



募集総額…契約額100億円(1ユニット10億円・10セット)
懸賞金額 1等賞…10万円(30本/1ユニット3本)
2等賞…5万円(60本/1ユニット6本)
3等賞…1万円(300本/1ユニット30本)

○対象者/当JAに総合口座を契約している個人の方
○取扱商品・預入期間/「スーパー定期貯金(単利型)の自動継続型1年の証書式又は総合口座
○10万円以上の定期貯金(新規・増額)での預け入れ
期間中にご契約いただいた方に10万円につき一口の懸賞金抽選券がつかます。
※詳細は金融窓口までお尋ねください。

金融部

ローン相談会(本支店のご案内)

毎月第3日曜日 9:00~15:00

6月 16日	相談会場 本店・下田支店 七戸支店・むつ支店	7月 21日	相談会場 本店・下田支店 上北支店・むつ支店
-----------	------------------------------	-----------	------------------------------

◆JA十和田おいらせ合併10周年記念
住宅ローンキャンペーン実施中! 10/31(木)まで
金利引下げの他、クオカード・ギフトカタログ等
お得な特典がいっぱい!!

◆JAマイカーローンキャンペーン実施中!
7/31(水)まで
変動金利 最大引下げ後の金利年1.0%(保証料別)

どなたでもご利用できます。詳細は本支店金融窓口までお尋ねください。

各種ローンを取り扱いしております。会社員の方、自営業の方、JAとのお取引がない方もお気軽にご相談ください。

農業機械・農業に関わる設備資金等の相談も承ります。



24時間365日受付中

各種ローンがネットで仮申込みできます。
検索方法は「JAネットローン」で検索!!

もくじ contents

あぐれっしゅ vol.111 6

特集 4~5p
合併10周年記念生産者大会
野菜の年間販売高90億円必達へ
~農家助成を計画~

・総務部 総代会開催日
・金融部 合併10周年 懸賞金付き定期貯金
キャンペーン実施中!
ローン相談会 …… 2p

継承人 表紙紹介
むつ支店管内
濱田幸彦さん(36)
裕子さん(37)
志鍊くん(1) …… 3p

NEWS&TOPIC 地域の話 …… 6p
・まっくら高評価
・種子生産圃場で田植え
・ダイコン首都圏出荷
・「白鷺85の3」の産子を巡回 -ほか

あぐれっしゅ情報① …… 9p
・JA自己改革

あぐれっしゅ情報② …… 10p
・JA職員募集

あぐれっしゅ情報③ …… 12p
・共済部 JA共済事業推進大会成績
・金融部 JAバンク青森推進大会成績

ふれあい広場
頭の体操 パズル? …… 13p

information …… 14p
・婚活出張相談会・子牛市場
・理事会だより
役員室のつぶやき

腕じまん
地域じまんのモノ語り …… 16p
・泥田に輝く青春の汗
~県立三本木農高伝統の全校田植え~

JAの概況 令和元年6月1日現在
正組合員数/6,506人
准組合員数/5,132人
役員数/26人
職員数(准職・嘱託含)/286人
貯金高/788億5,368万円
貸出高/172億8,666万円

一貫支援で
野菜の年間販売高増
資材助成や
育成塾も一助に

作付面積8%増、販売高11億円増

当JAは「やさい産地拡大対策事業」を核に生産から販売まで一貫した支援体制で、野菜の販売高を伸ばしています。2012年度の同事業導入以降、5年間で作付面積は8%増の2,054畝、年間取扱高は11億円増の84億円に増えました。事業を活用して作付面積を拡大する若手農家も増え、産地が活気づいています。



1,300戸が同事業活用

同事業は地区ごとに指定したゴボウやダイコンなど9品目が対象。増加した面積10a当たり4,500円～5万円の種苗費や土壌診断費の一部を助成し、面積拡大や新たな品目に取り組みやすくしています。事業費として年間1千万円を組み、18年度は農家全体の7割に当たる1,300戸が活用しました。



担い手巡回、年間6,400件

同事業の情報提供は、農家の要望などをJA事業に反映させる訪問活動「担い手パワーアップ・アクション」で行っています。18年度は支店長、営農担当職員47人で年間6,400件を巡回。19年度の同事業には労働力不足解消の声に応え、新たにニンニク作業の機械購入助成を盛り込みました。



ライバル意識でレベルアップ

就農支援では12年度に育成塾を開講。参加人数は毎年増えています。品目も増やし、現在ナガイモやニンニク、ネギなど6品目で、延べ120人の若手農家が達人農家から技、学識者から経営を学んでいます。ながいも育成塾で学ぶ若手農家は「良質な種芋の選び方を学び、入塾前に比べ収量が1.2割増えた」と成果を話しています。JAの営農指導員は「同世代とのライバル意識もでて全体のレベルアップが図られている」と話します。



農家支援、年間2億円超

販売力の強化では、首都圏などの取引市場を中心に毎月販売担当職員を派遣し、販売要請と商品調査、提案を行っています。その他、野菜販売額や肥料などの購入に応じたランク奨励金、生産組織への助成金など、12年度から取り組む農家支援の総額は同事業も含め、年間2億円を超えます。

斗澤康広営農担当常務は「一貫した支援体制が農家の所得向上につながる。生産技術の向上と生産性の効率化を視点を、これからも支援事業を展開していく」と述べました。



あいさつする甲田一博野菜振興会会長



決意表明する寺澤和夫ながいも専門部会長

特集
合併10周年記念生産者大会

野菜の年間販売高90億円必達へ 農家助成を計画

当JAとJA野菜振興会は5月10日に本店で開いた2019年度の生産者大会で、野菜販売額90億円必達を申し合わせました。大会には生産者、JA役職員、青果市場会社の役員、小山田久和田市長の他、行政の関係者ら280人が出席。JAは農家支援に2億円を計画し、目標達成を後押ししていきます。

生産意欲と、生産者の団結力を高めるために、JA野菜振興会が主催。甲田一博野菜振興会会長は「不順な天候が続く昨今、栽培技術を高め、消費者へ胸を張って供給できる野菜作りを目指そう。それには生産者同士のコミュニケーションを密にし、JA、自治体、全農、県のそれぞれががっちりスクラムを組むことが大切だ。県全体で農業を盛り上げていこう」と出席者に呼び掛けました。

竹ヶ原幸光組合長は、19年度も引き続き自己改革の取り組みの一環として農家巡回、種苗費・資材費などの助成、担い手支援など生産から販売までトータル的に支援していくことを報告。「農家の所得増大に向け、JAも最大限に農家をサポートしていく」と述べました。

青森合同青果株式会社の篠崎真孝代表取締役社長が「平成から令和へ野菜農家の未来は明るい」と題して講演しました。

生産者を代表して同振興会の寺澤和夫ながいも専門部会長が「生産者の力、組織力を結集し、さらなる発展、肥沃な大地を次世代へつないでいこう」と決意表明しました。

同振興会の18年度の年間販売額は前年度比4億5千万円増の89億円。ブランド野菜「十和田おいらせ」ミネラル野菜（トム・ベジ）で、差別化販売に取り組んでいる。19年2月には県内JAでは初のゴボウでグローバルGAP団体認証を取得しました。



生産拡大 所得増大 **ダイコン11億円超えを**
～首都圏向け初出荷～

JA下田野菜センターで5月29日、ダイコンの首都圏初出荷式を開きました。ダイコン8トンを積んだトラックが三重中央青果、浦和中央青果に向けて出発しました。JAでは高品質を維持しつつ定時定量安定出荷に努め、管内全体のシーズン取扱高11億円を目指します。

管内の生産者戸数は105戸、作付面積204㌃。野菜振興会ダイコン専門部会の久保田信一会长は「今年産の作柄は高温、干ばつの影響を受けて小ぶり。今後の降水量に期待したい」と話しました。収穫は6月から本格化し、多いときで日量150トンの出荷量を見込んでいます。

出荷式には農家や運送会社の関係者、JA役職員ら50人が集まり農家代表者らのテープカットで安全運搬を願いました。



▲安全運搬願いテープカットする農家の代表者ら



▲稼働が本格化してきた下田野菜センター

生産拡大 所得増大 **新規作付け呼び掛け**
～シュンギクとハウレンソウ～

十和田湖支店の野菜センターで5月24日、ハウレンソウと春菊の出荷目ぞろえ会を開き、参加農家40人が高温対策や品質基準を確認しました。2019年度は、新規作付けを呼びかけ、2品目で前年比110%の年間取扱高1億2,600万円を目指します。

今年産のハウレンソウは生産者数が67人で作付面積は4.1㌃。露地栽培のシュンギクは64人で4.2㌃を計画しています。夏場の産地として市場からの引き合いが強く、消費者からは味・品質の面で高い評価を得ています。



▲品質基準や出荷の留意点を確認する生産者

生産拡大 所得増大 **「白鵬85の3」の産子を巡回**
～鳥取県畜産試験場の職員ら視察～

鳥取県畜産試験場と鳥取県中央家畜市場の職員が5月14日、当JAを訪れ、鳥取県の基幹種雄牛「白鵬85の3」の雌子牛の導入農家を巡回しました。巡回職員は「愛情をもって大事に育てている。青森県の畜産振興となるよう応援していきたい」と話していました。

「白鵬85の3」の産子は肉質に優れ、全国的に注目を集めています。当JAの十和田市黒毛和種改良組合では2018年度より市の助成を得ながら5月現在まで49頭導入されています。

導入農家の一人、中野渡美孝さんは「穏やかで育てやすい。5月上旬に生まれた子牛も将来性がありそう」と期待しています。



▲導入牛の飼養管理をチェックする鳥取県の関係者(写真左と写真奥)

NEWS & TOPIC 地域の話
「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化(地域貢献)」に向け、JA十和田おいらせは「創造的JA自己改革」の取り組みを実践中です。

生産拡大 所得増大 **「まっしぐら」高評価**
～直送の産地包装で紹介～

当JAは5月下旬から、東海地方のスーパーで産地限定米「まっしぐら」の販売を始めました。産地で精米して直送するのは当JAでは初の試みで、同社は18年産600トンの取扱いを計画しています。

販売を始めたのは、現地でスーパーを展開するユニーの20店舗。同社がJA産の食味、品質を高く評価したことから、今回の企画に結び付きました。

販売する米は、5kg入と10kg入の2種類を用意し、10kg入りの小売価格は2,980～3,380円(税別)です。袋にはJA名と生産場所など地図付きで明記し、竹ヶ原幸光組合長の署名入りで信頼性の高さをアピール。認知度アップと当JAのブランド力強化を狙います。

竹ヶ原幸光組合長は「単品でも評価は高い。購入しやすい価格も魅力。生産農家の生産意欲につながる取り組みに発展させたい」と話しています。



▲東海地方で販売を開始した産地限定米「まっしぐら」

地域活性化 **来春高卒者の採用枠確保を**
～市がJAなどに要請～

小山田久十和田市長が5月13日来組し、来春の新規高校卒業予定者に対する雇用機会の確保と求人票の早期提出に関わる要請書を小林光浩専務に手渡しました。

三沢公共職業安定所十和田出張所によると、今春の新規高卒予定者は、3月末で就職内定率が100%に達している一方、半数以上が青森県以外に就職している状況にあるといます。

小林専務は「どこの企業も人手不足にある。積極的に採用し、地域の活性と貢献につなげていきたい」と話しました。



▲小林専務に要請書を手渡し小山田久市長(写真右)

生産拡大 所得増大 **種子生産圃場で田植え**
～良質米へしっかり管理～

県内の水稻種子を生産する、十和田市水稻採種組合(山崎誠一代表)の田植えが5月中旬、十和田市七郷地区で行われました。県の奨励品種「まっしぐら」と飼料用米の「みなゆたか」「えみゆたか」、低アミロース米の「あさゆき」の4品種が植え付けになりました。

十和田市の米農家47人が種子生産に取り組み、今年は作付面積114㌃を計画しています。



▲種子生産圃場で田植えをする農家